

「前期課程」初の修了式

松本秀峰

県内初の6年制「中等教育学校」として2010年に開学した私立の松本秀峰中等教育学校(松本市埋橋2)は12日、初めてとなる前期課程(中学校相当)の修了式を開いた。3年生84人は同校1期生で、すでに高校1年生程度の学習内容を学んでおり、4月から後期課程(高校相当)に進む。

まつもと市民芸術館(松本市)で開かれた修了式では、小宮山淳校長が生徒一人一人に修了証を授与。生徒会長の岩淵

中学校相当 84人

可奈さん(左)が「後輩たちの協力もあって部活や生徒会の基盤をつくることができた」と修了生を代表してあいさつした。小宮山校長は「皆さんは先頭に立ち、着実に学校づくりをしてきた。これからの学習に大いに生かしてほしい」と激励した。前期課程では、医師や弁護士などを講師に職業観を育てる授業などもあった。後期課程に入る4月には、生徒全員が10日間余の日程で英国を訪ね、英語を学びながら現地の大学などを見学する予定。後期課程最終学年(高校3年相当)の授業は大学受験対策が中心になるという。



前期課程の修了証を受け取る松本秀峰中等教育学校の3年生